

第 29 回 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会

(平成 25 年 11 月 8 日 静岡) 報告

標記協議会総会に参加しましたので簡単な報告をします。同協議会には国立大学の遺伝子関連研究支援施設、公立大学、私立大学、国立研究所、独立行政法人、民間企業の遺伝子関連部署や安全管理部署などの施設からなる協議会で今総会での加入承認を含めて 61 の正会員および企業会員からなる協議会です。総会では例年、遺伝子実験およびその安全に関する情報発信、各種委員会など様々な活動について報告、提案、議論が行われています。同協議会の website をぜひご覧下さい。<http://www1a.biglobe.ne.jp/iden-kyo/index.html>

今回皆様に関連のあることとして、ゲノム編集ワーキンググループの設置が挙げられます。TALEN、CRISPR/CAS などのゲノム編集技術を用いた実験が爆発的に増えてきています。これらの技術については現状の遺伝子組換え実験の範疇にすっきりと収まらないケースがあり、今後どのように位置づけていくか検討を進めることになりました。研究の自由を最大限保ちつつ、合理的な規制を行うことが必要と考えます。また、国際的な調整も必要になってきており、重要かつ迅速な対応が必要な問題となっています。大学遺伝子協で全国的な調査を行い、検討を進める予定になっています。

議事 1. 新規会員等の参加承認

正会員として独立行政法人放射線医学総合研究所、龍谷大学、企業会員として日本たばこ産業(株) 医薬総合研究所、武田薬品工業株式会社医薬研究本部、暫定会員として関西学院大学が承認されました。

議事 2. 文部科学省施策説明

1. カルタヘナ法および研究第二種告示の改訂について (研究振興局 ライフサイエンス課)

遺伝子組換え実験を行うに当たっては、カルタヘナ法や二種省令等のみならず、国内における他の法律等や海外の規制等に基づいた対応が必要であること、特に家畜伝染病予防法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、薬事法、植物防疫法などが例としてあげられました。

研究第二種告示の見直しについて、新たにその病原性が解明されたもの、適

切な拡散防止措置として確認が行われたもの等を中心に、今年度内を目途に見直し作業を実施中との説明がありました。

(1) 認定宿主ベクター系への追加。市販品として広範に利用されている者で、特段の危険性のないものの追加。

(2) これまでに各学会、感染症予防法および家畜伝染病予防法等において、病原性等に関するリスク評価が定まり、知見の集積がある微生物等の追加。

(3) (2)に関連し、微生物等の実験分類の見直し。広範に知見が集積（発症報告例が多数ある など）され、かつ、そのリスク評価が確立しているもの（感染研でBSL指定が確定 など）を原則とする。

(4) ウィルスや原虫等における表記の修正（「属と科のどちらで括っているか（括るべきか）分からないもの」、「宿主動物で括られているもの」、「病原性で括られているもの」など）。特にウィルスにおいて、大括り化することによって、病原性等の高い可能性のある未知の微生物の実験分類を低く設定してしまうことが懸念されるため、慎重な対応が必要。

2. 学術研究をとり巻く動向（研究振興局 学術機関課）

平成 26 年度概算要求について説明が行われました。(1) 世界水準の優れた研究大学群の増強として研究大学強化促進事業、多様な学術研究への支援として科学研究費助成金と人文・社会科学等の振興、国際的に卓越した研究教育拠点の形成として世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）と世界の学術フロンティアを促進する国立大学等における国際研究力の強化、(3) 学術国際交流の増進、(4) 優れた研究人材の養成・確保等、が紹介されました。

国立大学改革の推進について、第 2 期中期目標期間後半 3 年間で改革加速期として設定し、機能強化に取り組むことが紹介されました。

- ◆ 大学のガバナンス改革、学長のリーダーシップの発揮による、各大学の強み、特色を活かした教育研究組織の再編成の促進。
- ◆ 人材・システムのグローバル化による世界トップレベルの拠点形成の推進。
- ◆ イノベーション創出のための教育・研究環境整備の推進。
- ◆ 人事・給与システム改革の推進、優秀な若手研究者・外国人研究者の活躍の場の拡大。

議事 3. 大学連携バイオバックアッププロジェクト（IBBP）

-誰もが利用できる生物遺伝資源のバックアップ拠点形成-（基礎生物学研究所 IBBP センター）

基生研に設置された IBBP の建物、液体窒素フリーザー等の設備、停電対策などのハード面、および利用法などソフト面に関する説明が行われた。また、新規保存技術の開発、低温保存技術改良に資する基礎研究、低温生物学研究などの共同研究（研究費）の募集を行うことが報告された。電源を喪失した場合でも3週間は液体窒素で冷却を続けることが可能との説明がなされた。

Q. 建物と液体窒素タンクを結ぶラインについて地震対策はどうなっているか。

A. フレキシチューブで連結しており、地震によりラインが切断されることはない。

議事4. 事業報告

①第5回 遺伝子組換え実験安全研修会（平成25年7月20日開催）の報告

②拡散防止措置の例 冊子体作成

拡散防止措置の例 WG 座長の田中伸和先生（広島大）より、ネッタイツメガエル、メダカ、ゼブラフィッシュ、カタユウレイボヤ、ショウジョウバエ、センチュウなど各種動物に見合った拡散防止措置の例を掲載した冊子について説明がありました。今後、完成版が会員に配付される予定です。

大学遺伝子協 website にも掲載されています。

<http://www1a.biglobe.ne.jp/iden-kyo/kakusanboushi.html>

議事5. 委員会等報告

①幹事会

1. 遺伝子組換え実験安全研修会については、今後誰でも参加できる研修会（平成26年度は8月に東京開催予定）と、大学遺伝子協会員が全員参加する研修会（平成26年度は総会の前日に開催予定）を開催する予定であることが紹介されました。

2. ゲノム編集に関する WG を設置して検討を行うことが紹介されました。

3. 今まで毎年作成されていた活動報告書（「遺伝子」）の見直しを行い、今後は HP でリンクを行うことで活動報告書に代えるという提案が行われました。

②広報委員会

幹事会報告に記載した活動報告書についての説明がされました。

③組換え生物委員会

幹事会報告に記載したゲノム編集 WG に関する説明がされました。

議事 6. 安全研修会と総会について

幹事会報告に記載した、安全研修会と総会について提案と議論が行われました。第 6 回 遺伝子組換え実験安全研修会は 2014 年 8 月 2 日（土）、学術総合センター（東京）で開催の予定。総会は 2014 年 11 月 7 日（金）と 8 日（土）に徳島大学で開催の予定。総会会期中に会員全員を対象とした遺伝子組換え実験安全講習会を開催する予定。

議事 7. ゲノム編集について

ゲノム編集や同方法で作成された生物等の取り扱いについての提案議題があったことが報告され、幹事会報告等に記載したゲノム編集ワーキンググループを設置して検討していくことが紹介されました。今後のロードマップが示されました。

ロードマップ

1. 来年度の総会までに、会員施設の動向を把握する（アンケート等の実施）
2. 本年度中に調査を終え、幹事会で方向性を検討する。
3. 来年度の安全研修会で、この方向性について議論を深める。
4. 来年度の総会には、大学遺伝子協としての方向性を提示する。

議事 8. ヒト臨床サンプルの取り扱いについて

上記の提案議題の内容について事前に会員施設にアンケート調査が行われており、結果が詳細に報告されました（資料）。提案施設ではセルソーターが問題になっていたようです。

議事 9. 活動報告書の取り扱いについて

幹事会報告に記載したように、活動報告書の発行は「遺伝子 25 号」（平成 23 年）を以て終了し、今後は大学遺伝子協 HP で各組織の活動報告 URL にリンクすることになりました。

議事 10. 決算報告 議事 11. 事業計画、予算案

議事 12. 次期当番施設について

第 30 回（平成 26 年度）当番校：徳島大学

第 31 回（平成 27 年度）当番校（予定）：茨城大学

第 32 回（平成 28 年度）当番校（予定）：香川大学

（中川・西村記）